

Graded Direct Method Association of Japan

News Bulletin

第26号

英語教授法通信

1974年6月1日

編集・発行・GDM英語教授法研究会 事務局 東京都世田谷区豪徳寺2-27-19 吉沢美穂方 TEL. (429) 5929

G D M で 20 年

吉 沢 美 穂

1973年12月22日の東京支部の月例研究会で、私の最初のセミナーから20周年を記念して祝っていただきました。プレゼント、祝電、有志のかたの文集などをいただき、替え歌を歌って、思いがけない Happy surprise の連続で、めったに涙を出すことのない私も感激の涙をうんと出していました。

いつも「もうすぐ夏のセミナー」それがすむと「今度は……」とさきのことばかりたのしみにしているので、過去を振りかえることは不得意、それに年よりくさくていけません、この機会に昔のGDMを振りかえてみたいと思います。古い Bulletinをさがしてみると、1965年の第15号に「日本GDMの誕生のころ」という記事が出ています。その結びに「会員150人以上になった現在…… 近い将来、見ちがえるようになったこの誌上で、現在のことなど昔話として読む時が来ることを確信している」とあります。Bulletinはあまり見ちがえるようにはなっていないようですが、新しい会員のかたのためにも、もうそろそろ再び振りかえる時が来たようです。

第1回のセミナーは1952年の秋、米国留学から帰国直後にやったのですが、日本最初のGDMのクラスが Miss Chappell によって

始ったのは1947年なので、この時までに日本のGDMはすでに5年の経験を持っていたわけです。アメリカではそれ以前にGDMの経験を持っていた私は、相当いばっていられました。Miss Gibson のクラスでも、私はいつでも答えられるので“Anyone? Other than Mrs. Yoshizawa?”と私はなかなか答えさせて貰えませんでした。成績もAでした。

第1回の講習会は、毎週1回2時間ずつ、8週間という形式だったと思います。この形式はその後8年続きました。東山さんはこの第1回の講習会の「生き残り」です。片桐さん夫妻が1955年、升川さんが1959年の卒業生です。この頃の講習会について升川さんは、「広告、講習手続き、お金集め、セミナーを全部一人でやった人」と言っていますが、そのとおりだったかもしれないのに、ちっとも大へんだったという記憶はありません。最近夏は夏のセミナーのために何回も集って相談を重ねないと開始の運びにはならないのに、なぜあんなに簡単にやれたのかふしぎです。

1955年に最初の Teachers' Handbook 発行、これはひとりで行いましたが、片桐さんが加わったのでこの頃から研究会も形を整えて、年会費200円で会員の登録、1957年に

Bulletin 第1号, 1958年第1回公開講演がありました。

飛び飛び形式のセミナーを, 1週間に集中して開くようになったのは1961年から。これは東山, 片桐, 升川, 吉沢のチームが出来たので可能になったわけです。1968年に六甲で現在の宿泊制のセミナーが始まるまで毎年7月最後の週に続きました。1962年にはこの暑いセミナーで山田さん, 箕田さんが生まれました。1965年に片桐さんが関西に移って関西支部が出来, 1966年の夏は神戸でやりました。この頃はGDMと言えば「暑い!」と言ったほどで, 升川さんの物まねで吉沢とハンカチが結び付いたのはここに源を発しています。六甲以来やっと涼しくなりました。

月例研究会は, 第1回セミナーの頃から毎月開かれていたので, もう一度初期の頃にもどっていくつかの話題を拾ってみましょう。その頃の Handbook の, 特に後半はほとんど teaching suggestion が書いてなかったのが毎月の研究会は新鮮なおどろきに満ちていました。当たった人は何でも自分で考えなければならなかったのです。やりがいがありました。たとえば渡辺せつ子さんが御主人の助けで練習した絵を黒板にかきながら「太陽と北風」の話で make。片桐さんの小学校5年の授業で before, after。生徒が We said “Good afternoon, Mr Katagiri” after you said “Good afternoon, boys and girls.”と言ったこと。片桐ヨウコさんのトランプを使った may。阿江さんの完了形, I got a book. I have the book. I have got the book. という導入。など初期の研究会の産物です。

1958年の Bulletin に(当時会員80人)こんなことが出ています。「みんながデモンストレーションをさせたがる傾向が頂点に達して, プログラム委員はとても unhappy。だれにでも気軽にデモンストレーションをできる方法

を考えた結果ABC順にあてることにした」昔も今と変わらないですね。ABC順をまた始めましょうか。

このようにして積りに積った工夫の数々を, すべて記録してあったのが東山メモと升川メモ。これらを集めて改訂したのが現在の Teachers' Handbook です。Teaching suggestion が親切に出ているので, これに書いてないことを工夫すると, 「あまりこらなないように」なんて言われる今の若い会員は, かえってお気のどくな気がします。

公開講演会でも色々なことが記憶に残っています。山田さんの give, 東山さんの was, 1966年には英語をまるで知らない小学生を集めて第1時間目の授業を私がやりました。Bulletinによると「活動のきりかえのタイミングのよさで, 生徒も聴衆もあきさせないでひっぱった」とほめられています。同じ講演会で升川さんは高校生に教えました。いつも「しゃべりすぎると吉沢さんにしかられた」と言っている彼の授業について Bulletin にこう書いてあります。「彼自身ひじょうにすくなくしゃべるようになっていて, 彼のようなベテランでもさらに進歩するものだ, ということをしめした」(多分片桐さんの文)

祝賀会で歌った升川さん作の替え歌に

あれからもうはや20年
1人で1人でがんばった
吉沢さんのゴクローは
「ソレ目」で見てもただ涙

とありますが, 私にはちっとも悲愴感がないのです。まるでクッキーを作るのが好きな奥さんがクッキーを作るように, たのしんでいるうちにこんなことになりました。よい先輩に助けられ, 若い人々に教えられ, GDMに夢中になり, この世に生れてきたかいたが思ったと思っている, ととても幸福な私なのです。

注: 「ソレ目」ということばは, 研究会もまだ始まらない頃, 先輩の渡辺さんと阿江さんが使いはじめたことばです。

Learning and Teaching German Through Pictures

を読んで

山田 初裕

この論文を読む前に、片桐さんがドイツ語を教えているときいてビックリした。私も少しは勉強したのだが、ドイツ語はゴツゴツしていて固苦しいという印象から抜けできていなかった。それはナチズムと結びついていたからか、発音のせい、多分両方の理由からだろう。とても片桐さんとは結びつきそうになかったからだ。一般にフランス語はエレガント、ロシア語はヤボッタイ、ドイツ語はゴツイ……といった感じがあるようだ。20年ほど前、私が中国語を習っているというとき、きまってみんな変な顔をしたものだ。なんでそんな外国語（当時、中国語はいわゆる外国語の中に入っていなかった。）を習うのか、物好きだなといわれたこともしばしばである。

これを読んで片桐さんの意図はよくわかった。英語学の授業でドイツ語（German Through Pictures）をやったのは① 英語学は linguistics である。② 英語が analytic language なのに対しドイツ語は highly inflected language である。③ ドイツ語は教師も生徒もあまりよく知らない言語である。……からだそう。最後の理由が一番痛快だ。

教える者と習う者とあまり知識の差のない授業という、新卒の時、高校で世界史を教えたことを思い出す。1時間の授業に4時間ほど準備が必要だった。教える時はその時間の内容しかわからない。生徒にとっても、私にとっても次回はどうなるやら、お楽しみというやつで、たまたま授業が欠けるとホットしたものだ。しかし今考えてみても充実した授業だったと思う。授業が即、自分の勉強であり、毎時間が真剣勝負の授業だった。教えることは学ぶことだという実感も十分味わったからである。教師がプラスにならないような

授業は生徒のプラスにはならない。教師は自分をユタカにする授業をしなければいけない

片桐さんのいうように「きょう教えることは Ich bin ein Mann. Ich bin hier. だけでも、その背後に、その言語と文化についても莫大な経験が氷山の水面下の部分のようにひかえなくては安定した感じで授業することができない。」(p. 7) 結局、教えることはわかりやすく、ほんの少しにしぼっていて、その背後に豊富な知識と経験をもった教師が本当の教師なのだろう。

English Through Pictures を1頁からはじめて何回にもなるが、回を重ねるたびに進度が遅くなってきた。初めの頃は1、2時間ですんでいたものが数時間もかかってしまう。

しかし生徒は退屈しないで楽しんでるようだ

大人はEPにむかないということはあやまりだ。そして一つのSituationに対してできるだけ多くの文を言うことは意外と彼らにもむずかしいことなのだ。I am here. This is my book. のような簡単なことを言っても、なぜGDM方式だと人は興奮するのだろう。片桐さんは仮説をたてているが、日本語の生活では高い抽象レベルのコトバしか話していないので忘れていたものが（子供の頃のはじめてコトバを習った時の意識）外国語をやることで復活してくるのだろう。春のセミナーで、山本ススムさんが、French Through Picturesでフランス語を習った後、自分は6年間もフランス語をやっているが、Jeと心をこめて言えたのは今度がはじめてだという。うなことを言ったのが印象に残っている。

最後に、GDMの中には多くのPioneer達がいると思うが、ぜひいろいろの外国語実践して、その成果を発表してほしい。

「新850語で書く英語」(室 勝著)を読んで

根古谷 常雄

わずか850語を使うだけで一体どの程度の英語が書けるだろうか？(たいしたことは書けまい)という気持で本書を見のがしてしまっている人が多いのではないだろうか。実は私も軽い気持で手にしたのだが、読んでいくうちに驚き、感心し、興奮して知らぬ間につきからつきへと進んできてしまっていることに気づきびっくりした。今まで、「英作文というのは難しく面白くないものだ」と思っていたのだが、その考えが一度に吹きとんでしまって、どんな文にも挑戦すればなんとかなりそうだという勇気を与えてもらえたことが何よりもうれしい。

以下、本書の内容をまとめることにする。まず、表紙の内側に Basic English 850語のリストが載っている。これで著者の言う850語(C. K. Ogdenが1929年に発表した語)がどんな語であるかがわかる。サッと見ても、ほとんど目新しい語はないし、その数も850という目標がはっきりしているのでファイトがわく。

次に「英文の書き方」という見出しで和文英訳をする時の心がまえ、取り組み方が説かれ、Basic Englishの有用性が述べられている。つまり基礎的な語を結合することによってさまざまな内容を表現することができるので、難しい語に悩むよりも文の構造に対する知識を身につけることこそ大切だということ。

p. p. 16~25で come, get, give, go, keep, let,

make, put, seem, take の10の基礎動作語の用法を例文で示し、p. p. 26~35で方向や位置を示す語 about, across, after, against, among, at, before, between, by, down, from, in, off, on, over, through, to, under, up, with が例文をあげながら、基礎動作語と結びついて数多くの他の動詞の代り役になれることの一例が示されている。

p. p. 36~211が本文で、科学・教育・文化・教養などのあらゆる分野から88にのぼる例文を求め、Basic Englishで英訳を試みている。各和文は4~5行からなるもので、何れも興味深い内容のものであり、解説・用例・訳例の三段階に分けられている。解説では、和文英訳のコツ、つまり言いたいことは何で、それをどう表現すればよいか、全体の流れの中で〇〇という語句はどういう意味をもっているかということ学習する者の身になって書いてあるので、語句の切りとり方、つなげ方、選び方などが自然に身につくように説明されている。用例のところでは、問題文の中にくつかのことばについて広く例文を示しながら説明が加えられ、そのことばのもとの意味から比喩的な発展にまで言及されているので、肉となり、英文に対する勘を養うことができる。p. p. 212~219には芥川の「蜘蛛の糸」の対訳(DanielsによるBasic English訳)が載っている。わずか850語で、ここまで書けるのだということの例証であり興味深い。

GDM 資料館

絵を使った文型練習 (大修館書店)

¥ 800 吉沢 美穂著

意味論と外国語教育 (くろしお出版)

¥ 1200 片桐 ユズル著

翻訳 — 理論と実際 (研究社)

¥ 1700 沢登春仁 = 升川 潔訳

基礎単語の使いかた (評論社) 室 勝著
500語でできる英語会話

新850語で書く英語(ジャパントイムズ) 〃 〃

Japanese Through Pictures を作りませんか

山本 ススム

東京での Spring Seminar の時、表題のような事を述べたのですが、今になってこれはしまった事を言ってしまったと思っています。

関西のGDMではJTP を作ろうとする動きがあります。片桐ユズルさんや片桐ヨウコさんが大計画を立てています。ユズルさんから升川さんへの4月8日付の手紙を無断で引用。

「英語ばかりでなく、スペイン語、フランス語、ドイツ語、ロシア語、etc. にもひろげてゆきたい。それから Japanese Through Pictures をつくる必要性あり。いつかそのための meeting をしませんか？具体的に作品をもちよって。」

基礎日本語表を作る所から始めなければならぬと思われまふ。ETP が Basic English に基づいているように。ぼくが知っている基礎日本語の単語集は土居光知の〈基礎日本語分類表〉だけです。(他にあれば失礼ノ)しかもこの表は『日本語の姿』という昭和18年に改造社から発行された本の中に入っているもので、現在、それを見ることすら困難です。また、その表は昔のものですから現在の日本語

の実状と合わない所も多数あります。たとえば、【着もの】の項に「はかま」「羽織(はおり)」が入っていたり、【動物】の項には「蚕(かひこ)」、【聲】には「蓄音機」が入っています。

また【名の代り】の項には「私(わたくし)」「あなた」「彼(かれ)」が入っていますが、ETP で最初 I / YOU / HE / SHE … を教えるように、私 / あなた / 彼を JTP で最初教えるのは、少し奇妙に思われます。(JTP の最初は「コ・ソ・ア・ド」ことばから始めればいいのではないかと思っています。三上章『現代語法序説』p. 50 に書いてある次の図を参照して下さい。)

wale
|
nale
|
kole-sole-(k)ale-dole?
|
tale?

最後後に提案ですが、GDM 英語教授法研究会の中で GDM 日本語教授法研究のプロジェクト・チームを作りませんか？

ニュース

- ★ 東京支部では、初心者向けの Spring Seminar を 3/29～4/1、東京青年館で催した。参加者は33名(その内、現場の教師は15名)。講師は吉沢、東山、升川、山田、根古谷。最終日の午後は、月例会。この他に毎月第3日曜日、都立教育会館にて11:00～12:30、現場教師の会合、13:00～16:00 Basic English 研究会をおこなっている。
- ★ 日本英語教育改善懇談会(12団体)が1973年12/8～9 八王子大学セミナー・ハウスで開かれた。GDMからは片桐、升川、山田さんが出席。オブザーバーに箕田、ミカ川参加。第1日「教育環境」、第2日「教員の研修」を中心に進められた。
- ★ 東京の新宿にできた、朝日カルチャー・センターで吉沢・升川さんがGDMによる“初級英会話”を教えている。好評なので中級クラスを作るとのこと。
- ★ 4月に横浜市教育委員会の主催により市の英語研究会が富士見中で行なわれた。講師に吉沢さんが招かれ、200名以上の聴衆を前にして、相当にハッパをかけたとのこと。
- ★ 鎌倉婦人子供会館で5月16日～7月18日(計6回)、Seminar(初心者向け)を、また、横浜外語アカデミーで4月26日～7月18日(計12回)、GDMの集中講座を行なっている。

GDMと日本語教授

高木 恵三子

インドネシア大使館で行なう色々なパーティーには、いつも多勢のインドネシア婦人が美しいnational costumeで接待に当り、御婦人達手作りのお料理も数数serveされ、いつも心あたたまるものを感じていたのであるが、その際、英語を話さない日本人のお客様との応待のために、彼女達の方で積極的に日本語を習いたいという気運が出て来ていると知り、折柄、友人のSoehanto夫人が在京インドネシア婦人会の会長に就任し、日本語学習を婦人会のactivityとしてとりあげてみたいと希望されたのがキッカケで、私でも少しはお役に立つかしらと思ってお引受けすることになった。

正確には1969年9月16日(火)から毎週火、金の2回、午前10時から正午まで、大使館の前にあったClinicの建物の階下に、生花や洋裁の教室として使われていた黒板と机、椅子を備えた部屋があり、そこへ大使館へ出勤する御主人と一緒に家を出た夫人達が集ってくる、というわけであったが12,3人の生徒の中にはインドネシア銀行関係、貿易関

係の御主人を持つ夫人達もまじっていた。

彼女達の希望として、①字を習いたくない。②実用的な社交会話を、という注文が出ていたのであるが、クラスの中には日本語を全然知らない来日早々の者も、既に「馬鹿野郎」とか「ゴメン、ゴメン」といった言葉を覚えてしまった者もあり、そこで思い切ってEnglish Through Picturesをapplyし、ローマ字のカードを使用して日本語を教えてみたいという野心が出て来たわけである。

最初のレッスンだけはSoehanto夫人宅で、とのことで向いた私は、集った生徒の中にAshari大使夫人が居られるのを発見し予期していなかっただけに変な励みになったことであり、同時に、大使夫人の聡明さと熱心な学習態度は未だに鮮かな印象として脳裡に残っている。

GDMそのまま、I, Youを“Watakushi”“Anata”ではじめたところ、やはり自分を指して「あなた」と反応したのには驚くと同時に猛然と教える意欲が湧いて来たものである。

“Watakushi wa Takagi desu.”

“Anata wa Siregar-san desu.”

を次の段階にしたところ、「私は

Siregar-sanです。」「あなたはTakagiです。」となってしまう「私はSiregarです。」「あなたはTakagi-sanです。」のみこませるまで反復練習が必要であった。私も早く生徒の名前を覚えなかったので、いささか変則的な導入のしかただと思ったものの、次の段階で、

“Konokata wa Tanuseputra-san desu”
“Anokata wa Sunoto-san desu.”

といった応用動作に移った。実際に「あなたはSiregar-sanです。」というsituationは稀なのに、と思ったり、「あの方」「この方」という三人称を使う事に抵抗を感じたが、外交団の御婦人達の使う言葉ということで踏み切ってしまった。GDMで使いなれた絵が大いに役に立ったのもこの段階で、Iである「私」の図には口をつけ、Youである「あなた」の上半身に縞模様をつけて、Iの図のまわりに点線でサークルを画き、そこへ持って来た人物を「この方」、Youの図のまわりに置いた人物を「その方」として更に練習、IよりもYouよりも遠いところにいる人物を

「あの方」として区別し、
将来の

Kono, Sono, Ano
Kore, Sore, Are
Kochira, Sochira,
Achira

への伏線とした。英語にな
い「その」「それ」「そちら」
はこの方法で簡単に覚えた
ようである。

「あなたは Siregar-
san です。」という文は「あ
なたは Siregar-san だ
すか？」という疑問文を作る
時に役立たせ、「Ka+?」で
応用をくりかえした。答と
しては“Hai, so desu”
は簡単であったが、“Soja
naiyo”という答が、はねか
えって来たりしてびっくり
し、“lie, so dewa arima-
sen.”から“lie, chigai
masu.”を派生的に教える
ことになってしまった。

“Anokata wa _____ -
san desu.”

“Anokata wa donata
desuka?”

“Irvin-san desu.”

という風に省略した答に向
って発展させて行ったもの
の、次第に絵とローマ字以
外の問題が出て来て、とま
どうことも多くなった。レ
ッソンのあと refreshment
がいつも serve され、その
時に質問を受けたり実演し
ながら応用会話を紹介した
りするのであったが、接頭

語の「お」がなかなか難しいら
しく、例えば「クリームを下さい」
は「クリーム、お下さい」と
思いこまれていたことが分った
り、「おいしい」の「お」も接頭
語だと思われていたり、英語の
Thank you. のかわりに「ど
うも」だけですませてしまっ
ている生徒もあり、日本語を教
えることは日本語の不合理性を
思い知らされることでもあった。

intonation をなおしたり、パ
ーティーに招かれた時、人を訪
問する時などを想定して役に立
ちそうな会話を紹介することに
移行して行った頃、回教の
fasting season に入り、太陽の
出ている間は、飲むことも食べ
ることも許されない戒律のため、
生徒の中に脱落者が出たり、熱
心な生徒でも何やら青ざめた顔
でだるそうな様子となり、第一
refreshment が serve されて
も先生だけで食べられるもの
ではなく、一応中止とはっきり決
めたのは、12月のことであった。
丁度、インフルエンザも流行っ
ていて経験不足の教師としては
区切りをつけるのにいい時機だ
ったと思っているが、短い期間
とはいえ、和気あいあいの雰
囲気のクラスであったことがな
つかしく思い出される。

在日中、語学校に通って日本
語を覚えたアメリカ人の友達
が帰ってから7、8年後に書い
て来た手紙の中で、学校で習っ
たことは殆んど忘れてしまい、
「たった一つ覚えているもので、

今後永久に使うこともない
日本語」は、

“Sakana niwa te mo
ashi mo arimasen.”

という文章である、と言っ
ていたのを思う時、既に離
日した私の生徒達がどれだ
けのことを覚えてくれるか
しらと思うのみである。

Parodies for Mrs. Yoshizawa

作詩 升川 潔

いつものように ベルがなり
扉を開く私に
とどいた報せは
月例会の通知です。

あれは 23年前 とめる主人
後に残り、
トランク下げてひとり、
舟にのりこんだ。

ルーテル学校の暗い部屋
教会の前を通り抜け
入った部屋には
15人の人がおりました。

あれも20年前
熱をこめて語る内に~~~~~
GDMの仲間が2人、3人と

いつものように集まって来て
ワイワイ ガヤガヤ 私の
仲間が今では
500人をこえましたあ~~~~~

Spring Seminar (東京) に参加して

島 光 洋

期待と不安に包まれながら参加したSeminar。このSeminarに参加する以前、GDMによる公開授業を参観し、生徒が楽しく言語学習・活動をし、生徒と先生が一体となったの姿を目のあたりにするたびに、「これだ！私もあんな授業をしたいなあ」と思った。一方、私にはあのようにできるのだろうか、という気持もおこった。

第1日目、吉沢先生のlectureを拝聴し、その後、中学生に対するdemonstrationを拝見して感じたことは、situationに対する私の考えがちがっていたということ。dramatization や sitting のことではなく、生徒の立場で彼らが発表できるような situation-sentence structure のgrading に注意したsituationの提出ということであった。頭の中でわかったつもりでも、自分が実際にやってみると大変むずかしい。このことを痛感したのは、assignmentを与えられて、参加者

を生徒にみだててのpracticeの時でした。私はさんざん失敗し、その日はがっかりしてしまった。本当に「いやんなっちゃった」というのが実感でした。

だが、そのことが一番の勉強になったのかもしれない。思っていると思うようにできない。やってみて皆んなにいろいろ言ってもらうのが大切なのだろう。

つぎに、このSeminarは辛い面がある反面、非常に楽しかった。coffee break, lunch timeでの先生方、参加者とのざっくばらんな話し合い。これが意外と勉強になったと思っている。また、講師の先生方によるdemonstration。それに対する皆んなでの話し合い、苦しみの中にも楽しさがあり、終りに近づくにつれ、興奮が増してきた。なぜだろう。私にははっきりわからない。最後に、良いと思ったら、やってみることだ、とつくづく感じた。

GDM を教えて一年

JERRY OGAWA

北九州でのGDM教授法は、北九州YMCAを中心に4,5年の間おこなわれて来ました。

私は、昨年アメリカより帰国し、初めて北九州YMCAの講師として、4月より授業をもつことになりました。

そして、子供の英語で行なわれていたのがこのGDMの教授法で、自分でも多くの努力をかさね研究をしてみりました。そして、機会を得て、夏の御殿場の東山荘セミナーに参加する事が出来、より一層の研究が出来た事を喜んでおります。

でも、私の研究がまだたりないのかもしれませんが、このGDMの教授法に対して、特

にセンテンスの部分に関して、疑問を感じる所があります。

また、夏のセミナーで、先生方や参加者の方達と色々な事を話し合って、研究させていただき、それを生かす意味で、個人的に成人向けのGDMクラスも、行なってみておりますが、成人会話においては、不適当だと思われる所も、みうけられます。

現在、私が教えている北九州YMCAの近況をお知らせしますと、73年度は、9つの場所、約200名の子供達が集まり、10名の先生方で授業が行なわれていました。

多数の所でやっているため、1クラスの人

員が少なく、また継続の問題で大変苦勞をしている次第です。これ等の問題をこくふくしたいという事で、今年は地域を再編成し、4ヵ所に場所をしばり、生徒の継続率を高めるように努力をしています。また、子供から大人までの英語教育を一本化してゆきたいという願いから、生涯教育における英語教育のありかたを研究してゆきたいと思っております。

しかし、3年目、4年目になる生徒のDropを、どのようにくいじめ、また、人数的にも安定したクラス運営をしてゆくかが、今後の

私達に残されている大きな課題となっております。皆様方のクラス運営で、何か良き方法がありましたら、ぜひお教えくだされば、幸いです。

以上、私が1年間GDMを研究しましたそれにもとずいて教えて来た事、北九州YMC Aの現況、また私共の現在の問題点等ととりとめもなく述べましたが、この事を通して、皆様方と共に研究させていただきたいと思っております。

空間的Contrastに気づけなかった

郡山市 国分 賢二

月例会に出席したいと思いながら、いつも週日に行なわれる為出席できないでいました。3月の例会が私の英語教室の春休み中なのを幸いに、5年ぶりに出かけ吉沢先生、東山先生をはじめ諸先生にお会いできました。山田、夔川両先生の中、仏語入門の熱演、吉沢先生の起承転結のピシッときましたPassive導入のデモ、参加者の活発な討論 — GDMの空気を胸一ぱい呼吸（ふんい気にひたる、などというものではない）してきました。

私の教室（小6～高3各クラス）では小学生クラス（対象小6、十数名）にGDMによる英語入門を行なっていますが、ETP45頁あたりまでを毎年くり返しています。最近マンネリ化して、例えばwentの導入がすっかりきまらないんですね。例会閉会後諸先生方と懇談の時、吉沢先生が、生徒を3人前に出してやってごらん、と言われたこれが強烈なパンチ。時間的contrastを考えることばかりに氣をとられて空間的contrastに気づけなかったのです。発想の泉が涸れかかっているんですね。柔軟な発想 — これがGDMを生き生きとさせている生命だと思えます。

今年のクラスでは、ある父親が申込みの時、先生のところでは生徒を指すのですか、と言うんです。どんどん指しますよ、50分の授業で1人が10回くらいは当たります、と答えたら、うちの娘は内気でそれを一ぱんいやがるんです。ピアノを習い始めてすこし経った頃皆の前で弾かされることになったら、もう習わないといってやめてしまった始末で、その辺のところを考慮して長続きするようにしてくれ、と言うのです。

第一回の授業でその子は人形のような顔をして小さな声でrespondしたりコーラスに合わせていました。第二回の授業、始まってまもなく彼女は赤い顔をこっちへ向けて手を上げているではありませんか。言いたくて言いたくてしょうがないのです。そして言い終わった時の満足そうな表情。言語中枢にimpressされたものは、時を待たず、expressする衝動につながっていく — これこそ本当の言語活動だと思いました。impressされたものがそのまゝ内に沈潜してゆく筈の内向型性格の歪んだバランスがたちまち崩れて入力→出力の自然のバランスを回復してゆくのをみるのです。

大人クラスのエピソード

溝口 寿美

GDMは、子供、または初心者のためにあるように思われがちですが、何年も英語を学んだ人が、整理のために使うこともできます。このことを、声を大にして言いたいと思います。全くはじめての人達のクラスとちがいで、教師も生徒も意外な発見をすることがあります。私が持っていたクラスは、ある企業で、就業前、週2回1日1時間半づつでした。このクラスのエピソードを、少し紹介したいと思います。

(1) "He went to the door. He is at the door." と言うと、"He went to the door. He is by the door." と、言い方はのです。そこで、atとbyを、とり上げなくてはならなくなりました。

(2) "Apples and oranges are different sorts of fruit." と言うと、生徒が、sortよりkindの方が、いいのではないかと聞きました。だから、机の上でたくさんの鉛筆の中から、赤鉛筆だけを種類別に取り出しながら、"I am sorting red pencils out." と言いました。すると生徒達は、面くらったような顔つきになりました。

(3) 洗濯物をつるしているなわがたるんでいて、そこを棒がささえている絵を書いて、"This is the support. It keeps the cord up." というところから、supportを導入し、"Who is the support of your family?" と聞くと、ほとんどの生徒が、"My wife is the support of my family." と答えました。

以上のように、(数少ない例ですが) その言葉についての最初の理解がいかに大切であるかということを、改めて痛感しました。

外人にGDM精神を発揮

田中 晶子

鎌倉グループでは毎週一回GDM会員の中心から希望者が集まって英語のおしゃべりを楽しんでいる。先生はイギリス大使館関係のチャーマングなミセス。日本についていろいろ興味を示されるので、私達は日頃きたえた? GDMの精神を発揮してSEN-SITで答えるようにしている。海苔、乾瓢、巻きすなどを持ってきて、おすしの作り方を説明したり、銭洗い弁天へ散歩しながら日本人の宗教観を説明したりする。私達の方が驚く事もある。クリスマスにニッケ、オレンジなどを一緒に煮て香りをつけたワインをご馳走になり、暖めて飲むワインがある事を知った。又、英語の質問をメモしておいてこの時間に解決する。例えば「あなたは何番目のご兄弟ですか。」はどう表現するのだろうか? "Where do you come in your family?" あー、Basicで言えますね。という具合である。native speakerに通じない「英語」を発見する事もしばしばある。ベッドタウンという言葉に先生は首をかしげた。これはdormitory townと言うべき(だそうだ) 私達の周囲に、このような国籍不明の言葉が何と多い事だろう。子供達には正しい英語を教えなくてはいけない。それにはまず私達がひとつひとつの言葉のroot senseをしっかりと把握しなくては、とまずまずファイトを燃やしている。

News

- ✓ Miss Saito had her arm broken when she was skiing with other teachers of the Nanzan Y.
- ✓ Mr. Susumu Yamamoto is the new editor of the Kansai Newsletter. He is studying linguistics at Osaka City University (Graduate School).
- ✓ Mr. Nakago is back from his journey in Europe.

生徒側からの評価

足立 正治

昨年一年間、はじめて English Through Pictures で教えて、51頁までやりました。生徒側からの評価を紹介します。(中学1年生・男子ばかり44名が2クラス、6時間の英語の授業のうち2時間をぼくが担当しました)

A君 — この英語の授業と松浦先生の英語ではどちらがいいと聞かれたら大部分の人が足立先生の方がいいというにちがいない。なぜなら、足立先生の英語は、プリントもむずかしくないし、英語をしゃべってればいいのだから楽でいい。別に意味をとらなくても見て思った英語をしゃべればいいし、先生のいったことを応用すればいいのだから非常に楽に思う。……

B君 — ぼくは、あまりこの時間はすきではありません。それは第一にうるさい。第二にあまりわからない。第三におもしろみがない、ということです。それにもうひとつあります。プリントをたくさんしますが、こんなことをしてもあまり意味がないと思います。簡単なものをたくさんするより、むづかしいものを友だちのを見ないでやるとかしなければ見る人もちしきがつかないし、見られる人も気分がわるいのです。とにかくこの授業はもう少しみんなが、しまってきちんと勉強できる体せいにしてノートに記録して、覚えていられるようにしてほしいと思います。

C君 — 英語を書くことより、おもに言うことをやったので、習ったところの単語全部は書けないけど、一日一日の授業がとてもおもしろかった。

D君 — ぼくは一年に入ってきたとき英語をやっていておもしろいと思いました。けどだんだんおもしろくなくなってきました。でもよくきいたときはおもしろくて、よくしゃべれるからとても楽しくてたまりませんでし

た。だから足立先生の英語はきいて、みる英語だな、楽しい英語だなと思いました。

E君 — 中学へ入って足立先生の授業を受けて、初めは「チンプンカンプン」だったけど、だんだんわかってきた。でも時々むずかしい英語がでると、「ウェー」という不満の声がでる。それに意味を言うてくださらないのだから、たいへん腹が立つ時がある。それだから毎時間、毎時間が必死で聞いていなくてはわからなくなる。ぼくはいつもそうかもしれないが、みんながある物を見て英語をどしどし言うのに、ぼくは圧倒されてしまってあまりうまく言えない。

F君 — 僕は昭和48年の春に入学してもはや1年たった。はじめのうちは、足立先生がどんな人かわからなかったが、だんだん英語をしているうちにおもしろくてやさしい人だなあとと思った。1年間の英語を見て全部よくわかっているとまではいかないが、ある程度はわかった。しかしときどきさっぱりわからなくなるときがあるが、それははじめのうちでやっているうちにだんだんわかってきた。

全てを紹介できませんが、とかく教師のやっていることを肯定的にのみとらえがちなこの種の感想文の中で、B・E君の言葉はぼくに重くのしかかってくる。

自分の使える英語で自由に表現させると、生徒たちはこちらが予想しなかったものを作る。紙芝居、劇、問題集etc. なかには絵本を作って、前がきに My book is in your hands. Now your eyes are open. You see my book. というのもありました。また、ケッサクの1つを紹介します。絵の方を想像してください。

Yukiko is playing tennis.

Osamu sees her.

He is on his arms, body and legs.

His face is on his right hand.

やっと SEN- SIT の意味がわかってきた

東 繁 春

「東さん、ちかごろどうしてる」
「1年やってみて、ようやく SEN- SIT という意味が分かって来ました。面白くしてやろうと思って、いろんな材料をもちこんだ時はうまくいかなくて、簡単なもの1つで子供たちが大喜びすることがあるんです。それで、はっきりとした situation 作りをやらないとダメで奇抜さをねらったものをやる必要はないということがわかったんです。昨日、Go の review をやったんですが、20cm位のゴキブリの絵を切り抜いて棒につけて、It will go to Kazuhiko というとたいへんな騒ぎになるんです」

「ようやくおもしろくなってきたようだね」
「吉沢さんのデモを見て GDM はすばらしいと思ったのですが、自分でやってみるとうまくいかない。自分の力不足ではないかとか、もっとうまく出来るはずだと気ばっていたんですけど、それがようやくマイ・ペースでやれるようになったんです」

「東さんは呉 YWCA にいるわけだけど、そのことを呉 YM の先生たちと話し合うの？」
「あまりないですね。meeting の時間が少なくてね。毎週1回勉強会をやっていた時もあ

るんですが、欠席する人が多くなってやめてしまったんです。勉強会の中味がおもしろくなかったことも原因だと思っています。先生同志のチームワークが出来てないんです」

「たぶん、他の先生たちも東さんと同じようなことで悩んでいると思うけど、それをうまく表わせないのではないかな」

「そうだろうと思うんですが……………」
「5月6日に勉強会を開くんだって、広島 YM や YW の人たちと一緒に」

「ええ、今までは YW や YM の合同講師会という名目でやってきたんですがね、神戸の Advanced Seminar で小高さんから、広島や金沢や名古屋にも支部を作ったらという提案があったり、合同講師会というのでは手続が面倒で、今回は“GDM 英語教授法研究会”の会員の勉強会という名目でやるんです」

「そうすると、いよいよ“広島支部”が出来そうだね」

「乞うご期待。今回は神戸から足立さんに来てもらう予定です。そして金沢や名古屋や東京や、いろんな人に広島に来てもらって学びたい、こちらからも行きたいと思っています」

これからの展望

片桐ユズル

呉セミナー(3/26~27)では、藤井久美子さんや東繁春さんなどの日常活動が、すでにいいオリエンテーションをしてくれているという感じでよい雰囲気。中級セミナーにも足立正治さんを助言者として、みんな自発的に“わたしはこうしているけど、どうで

しょう”というふう気軽に参加した模様。

参加者が大学1、2年というふう若くなってきている。これは、いままでの英語教育への不満が、このへんの世代に噴出したためだろう。英語の必要に目覚めつつ、しかも今までのや

り方にあきたりない若い人たちを集めて、まず彼らに自信をつけてやるのが、ひとつの大切な将来性のあることではないか？ 京都にあるほんやら洞の2階をかりて、片桐ユズ子、中尾ハジメが、若者たちに4月から英語を教え始めた。

名古屋通信

山田 和歌子

名古屋では昨年はGDM 2年目で、いい事がいくつかありました。まず初めに斉藤直美さんが9月から南山YMCAの講師に加わってくれたこと。GDMのMethodとしての面へのみとらわれがちであった私達に、彼女は意味論という言葉は使わずに、DirectにGDMの持つ意味論的なおもしろさを沢山giveしてくれました。彼女のクラスを見ていると子供達と言葉だけでなく目でからだで通じているのだとつくづく感じます。彼女のpersonalityは講師間のcommunicationにも大きな変化をもたらし、YMCAの講師室がにぎやかになり、誰かが集めなくとも人の集まりが広く深くなってきたのは彼女が時々持ってくるチョコレートやビスケットのせいだけではなさそうです。

2つ目は秋に升川先生に来ていただいて父兄対象の講演会をしたこと。GDMのクラスは詰め込み教育をしている塾とはちがうのだというお話でしたが、それ以来じゃあ教え込まないようにするにはどうするか、どうすれば印象深く体験させられるかということ意識するようになりました。

3つ目は暮のAdvanced Seminar、春のBeginners Seminarに初めて片桐先生に名古屋に来ていただいたこと。厳しく鋭い話をされるので近よりがたい人のように思っていました。威圧感のない、こちらの思っていることが素直に話せる人柄に近くて接して、みなとてもよい経験をしました。片桐先生と話をしていると自分でもびっくりする位敏感になるので不思議です。

私達はGDMを通じていろいろな出会いを経験できますが、この人々との出会いをkeepしつつ、長い間かかって何かをmakeしていきたいものです。

にゆうず

関西支部

小高 一夫

☆ちからをいれていること

○月例会 — 何ととっても、顔を見ながら話すのが一番よい、ということから始まった。欠かさず毎月ではないが曜日と場所を変えて行ない、中味は多様である。Lecture, Demonstration, Practice, Book report, 他の教授法の見学, 教育問題のDiscussionなどをやっている。

☆ちかごろめだつこと

○会員に若々しい男性がふえ、一般学校の教員もふえてきた。もっともっと大きくなあれ!

☆困っていること

○お金がないこと 販売量はふえても、ふところには殆んど残らない。「実費」の厳しさを実感する。staff達のvolunteer spiritだけが命綱。会費でなんとか……

○Newsの印刷 とにかく、印刷機がなく印刷をするのだからモロモロの苦労がある。1号1号に印刷係の汗がにじんでいます。彼等こそ、縁の下の力持ちです。どうぞ、一字一字をよく読んでください。

☆したこと&すること

○4月1日～3日に景勝の地舞子浜でIntermediate Seminarをやった。参加者全員が、Review・Introduction・Practiceを含む実際のone lessonを想定したDemonstrationを行ない、夜は公開講演会の持ち方、関西支部の核活動など、今後の問題についてDiscussionをした。

横浜通信

杉崎 聡子

横浜Yの今年度講師トレーニングが3月21日から3日間、吉沢先生、升川先生をお迎えして、受講生約25名程の規模で行なわれました。吉沢先生は毎日車で東京から通われ、升川先生は市内のホテルに泊り込まれるというご熱心さに、私達は気のひきしまる思いをいたしました。

ここ横浜YのGDMは講師3名、生徒80名でしたが、今年度は生徒数が200名に増え、講師の大巾増員が行なわれたのです。新講師陣は、このセミナーで、初めてGDMを知るという人達でした。

吉沢先生のセオリーに続いて、升川先生と溝口さんによる、ETPのp1～p30までの各項目のリレー式プレゼンテーションに、一同大喜びでした。「面白そうね」「教えることがはっきりしていて教師は他のやり方より楽なんじゃない？」等々。2日目、3日目と私達自身によるプラクティスが始めると、「5分も続けられないんですか」と吉沢先生から声がかかってしまいました。又「andをどうしても使いたい状況って、どんな時かしら？」

「at のカバーしている動作の範囲ってどこまで？」先生のなさった時は、You will give it to A さんがはじめに導入できていたのに私の時はどうしても

to me を教えなければいけない状態になっちゃうのよ」「Is this A? と導入しようと思う寸前、what is that? と言われてしまうんだけど何故かしら?」、皆頭をかかえ込んだり、大笑いしたり、大変な騒ぎになりました。その結果、Yの事務局には「GDMで教えさせて下さい」という申し出が殺到して、黒田主事を困らせたようです。

興奮気味に切って降ろされた新学期の幕。「溝口先生、3時間目に、have, there に入ろうと思います」という連絡に、彼女大あわて。「えっ?、もっとゆっくり、のぼしのぼし教えた方がいいよ」でも、一生懸命やろうと一目散に走り出してしまった彼等を、今は

はとめようもないのだと思います。生徒の口が重くなってしまった時、初めて楽しくやれそうだと、易しく教えられそうだと思いついて、GDMを支えている理論や、必然性とじっくりむかい合い、「ああ、そうか」と先生自身が気づくんじゃないかなと思います。勿論子供達はいろいろな環境から送られて来ますから先生のやり方が悪かったとは言えない場合もあると思います。でもそういう様々な家庭環境、個人的資質を背負ってYにやってくる子供達が、口を開き、心

を開き、目を開いていく場に共にいられるということは本当に素晴らしいことです。

NEWS

- ☆ 升川さん、片桐さん6月の末から3ヶ月にわたり渡米。ミカ川さんは8月に通信教育生と一緒に香港へいく。
- ☆ 片桐エズル“Learning and Teaching German through Pictures” (木野評論抜き刷り、発売中)。三一書房から5、6月に出る教育の本に「地図と現地をおしえること」を書いている。今年の京都精華の英語学の時間、前期は、Spanish Through Pictures をやるらしい。
- ☆ 東京の目黒第九中学校では、本年、区の研究指定校となり、GDMによる授業の研究発表をする。西島さん、津谷さん、佐伯さんガンバってください。
- ☆ Miss Hayakawa of the Kyoto y got married this April.
- ☆ 小高一夫さん転居 〒655神戸市垂水区霞ヶ丘7-3-33 第2霞ヶ丘ハイツ 115号

暖かい御支援ありがとうございました

林屋 増子

今春は私達金沢 Y M C A で働く G D M 仲間にとっては非常に困った厳しい試練の時となりました。四年前に G D M をスタートさせて以来、毎年何回もの自主トレや講師を迎えてのセミナー等を通し自己研修だけでなく仲間みんなの向上を目指してささやかでも着実に G D M が育ち、子供達も英語が楽しいと継続率が非常に高く嬉しい成果にさ、これからさらに勉強をと張り切っていましたのに金沢 Y M C A 理事会は経営不振で事業を終結すると決定を下したのです。事業終結理由に納得できない点が多いこともありましたが何よりも私達は子供を放り出すことなど出来ませんしずっと続けてやりたかったのです。終結決定に反対し Y M C A 再建のために職員と講師で他に場を求め金沢 Y M C A 再建のための金沢青少年教育センター (K Y E C) とし不便な点も多い中を従来通りの事業を継続しています。 Y M C A でなければ G D M がやれない訳

ではないでしょう…と言われるかも知れませんが、実際私達はあの Y M C A で育ったのだと感じています。終結ということで他の英語スクールから、“熱心な講師方と聞いているのでうちへ来てやってもらえないか？”とお願いしていただくなど私達の身に余ることでしたが、私達が芽を出しやっとう双葉をひろげた地を大切に守ってたくましく育たなければと思っています。それでこそ枝振り豊かな樹になれるというものです。今度のことで、いろんな事情から私達の仲間みんなが共に現在の場で仕事をすることができなくなったのは大きな哀しみですが、それぞれの場でさらに学び続け、お互いに学び合ってゆきたいと思っています。私はつくづく思うのですけれど、G D M をやっていたらこれ程がんばれたかなと思うのです。答は？もちろん No. / です。G D M って……不思議です。

中学、高校向き最適の英語教材

Composition Through Pictures (L)
J. B. Heaton

General Service English Wall Pictures
(L) Gatendy & Eckersley

English 900 (C-M)

New Horizon in English (A-W)
Mellgren & Walker

First Book in Comprehension

Precise & Composition, (L) Alexander Words, Words, Words, Paul Alff

カラフルな児童向き絵本

The Faber Book of Children Songs
Nursery Songs

The Faber Book of Nursery Verses
Nursery Stories

※ その他 Basic English 関係の図書も多数取揃えています。

sbs (株) スクールブックサービス

東京都文京区小石川 5-2-3 〒112
電話 (03) 815-6341・6342 振替 東京 86192

GRADED DIRECT METHOD SUMMER SEMINAR のお知らせ

と き：1974年 8月19日(月)～23日(金)
4泊5日

ところ：日本Y M C A同盟東山荘
静岡県御殿場市東山

講 師：伊達 民和 (泉北高校教諭)
(ABC順) 東山 永 (GDM鎌倉グループ代表)
片桐ユズル (京都精華短大教授)
中郷 安浩 (大阪市大助教授)
根古谷常雄 (千葉大学附属中教諭)
小高 一夫 (松蔭女子学院大学講師)
山田 初裕 (羽田工業高校教諭)
吉沢 美穂 (ICU講師・GDM
英語教授法研究会代表)

内 容：a) Theory
b) Class observation
c) Observation and training
d) Discussion
e) Speech clinic
f) Audio-visual display
g) Recreation e t c.

※ 実習クラス

このセミナーのためにY M C Aの小
学生により実習用クラスを設定し、
モデル授業見学、授業方法の実習を
おこないます。実習用クラスは、小
学5年～6年の子どもたちで、
② 英語を習いはじめたグループ。
③ やや進んだグループ。④ かな
り進んだグループに編成されます。

受講資格：英語教師または英語を教えること
に興味のある人

定 員：一般セミナー……この方法について
初めて学ぶ人 (50名)

中級セミナー……GDMセミナーの
経験があり、この方法による授
業の経験ある人 (30名)

受講料：申込金¥1,000、受講費¥9,000(た
だし、教授法研究会々員¥8,000)

宿泊料：¥12,000 (4泊5日食事つき)

教 材：English Through Pictures, .
Book 1 (¥570.)

Teachers' Handbook for English
Through Pictures (¥1,000)

その他

申込先：(☎221)横浜市神奈川区鶴屋町3-32
電話 045 (311) 5 3 6 1

横浜外語アカデミー内
GDM英語教授法研究会

東京支部 GDMセミナー係

しめきり：7月31日 ただし定員に達しだ
い締切ますので早目にお申込下さい。

申込方法：申込書と申込金 1,000円を添えて
申込んで下さい。(郵送は現金書留)
申込金は返金いたしません。受講料、
宿泊料、教材費は現地でお納入下さい。

共催：GDM英語教授法研究会
大阪Y M C A英語学校

公開講演会 (関西支部主催) のお知らせ

日時 1974年 6月22日(土)

2:00 ~ 5:00 P.M.

場所 日本生命 中之島研修所 (大阪)

授業実演 甲南高校の足立正治さんが、

堺Y M C Aの中学生を教える。

講演「コトバとからだ — 解放の手がか
りを求めて」竹内敏晴氏 (演出家、
桐朋学園大講師)

● おわび — 寄せられた原稿に対して紙面の都合で削除しましたので、ご了承下さい。(ミカ川)